

報告第15号

令和2年度

城里町教育委員会外部評価委員会点検評価報告書

(令和元年度分対象)

城里町教育委員会

令和元年度教育行政に関する第2次城里町総合計画施策の体系

〈基本構想〉

【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

ともに社会を生き抜く力を身につける教育

- 施策1 城里町を支える人を育てる教育の促進
- 施策2 確かな学力と自ら考える力の育成
- 施策3 豊かな人間性と社会性の育成
- 施策4 健康な身体と体力の育成
- 施策5 特別支援教育の充実
- 施策6 質の高い幼児教育の推進

安心して学べる教育環境の整備

- 施策1 教職員の資質・能力の向上
- 施策2 学習環境の整備
- 施策3 安全安心な教育環境の整備
- 施策4 家庭・地域の教育力の向上
- 施策5 地域資源の教育への活用

生涯にわたって学べる環境の整備

- 施策1 生涯学習の充実
- 施策2 生涯スポーツの充実
- 施策3 生涯学習施設の有効な活用
- 施策4 地域コミュニティの活性化

郷土の文化の継承と文化財の保護

- 施策1 地域文化の伝承
- 施策2 文化財の保護とPR

総合計画・教育振興基本計画に基づく基本方針と施策の方向

ともに社会を生き抜く力を身につける教育

【基本方針】

確かな学力定着や個性を引き出す多様な教育の機会の提供に努め、これからの社会を生き抜く力を身につける教育を目指していきます。

また、ふるさとを愛する心を育み、地域を支えていく人材を育てていきます。

【施策の方向】

(1) 城里町を支える人を育てる教育の推進

城里町教育大綱（教育の基本理念）の町民への周知に努めるとともに、児童生徒が、郷土愛を育み、ふるさとに誇りを持ち、地域社会の一員としての自覚が持てる教育を推進します。

小学校から中学校への円滑な教育の継続を目指し、小中学校が連携して、義務教育期間を通し子どもたちの発達や学びの連続性を踏まえた学習指導や生徒指導に取り組みます。

(2) 確かな学力と自ら考える力の育成

児童生徒が主体的に学習に取り組み、基礎的・基本的な学力を身につけることができるよう、思考力・判断力・表現力を育む指導の充実を図ります。確実な知識の習得のための反復学習や習得した知識・技能を活用する学習を推進します。

国際化に対応した教育やコミュニケーション能力の育成、コンピュータ等を活用した双方向型の授業、社会的・職業的自立に向けた能力を育成するキャリア教育など多様な教育機会の提供に努めます。

(3) 豊かな人間性と社会性の育成

児童生徒の学年の段階に応じた道徳教育や人権教育の指導に努めます。また、自己有用感の醸成など豊かな心の教育を育みます。

学校でのいじめや暴力を未然に防ぐため、一人一人の子どもの状況の把握に努め、生徒指導の充実を図るとともに、相談を必要とする児童生徒が適切な相談を受けることができるような体制を整備します。

コミュニケーションの基盤である言語活動の充実を図り、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に努めます。

(4) 健康な身体と体力の育成

健やかな心身の発育・発達や健康的な生活習慣の定着の大切さへの理解を促す学校保健学習の指導を行います。

体育の授業においては、運動を通じ児童生徒の体力の維持・向上に努めるとともに、生涯にわたりスポーツに親しめるよう様々な運動に触れる機会の充実を図ります

児童生徒の正しい食習慣の定着や食を大切にする意識を育てます。

安全で安心できる学校給食を提供し、地産地消を給食献立に取り入れます。

(5) 特別支援教育の充実

障害のある児童生徒が、自己の持つ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立の能力と態度を育成する指導に努め、校内のバリアフリー化など教育環境の整備を図ります。

特別支援教育への理解を促進するとともに、特別な支援が必要な児童生徒への支援や対応を図ります。

(6) 質の高い幼児教育の推進

町立・私立認定こども園，小学校の指導者が連携し，幼児期の教育と義務教育の連続性や一貫性のある教育を研究し，幼児・児童に関する相互理解を深めます。

子どもたちが町立・私立認定こども園から小学校へと円滑に移行できるよう，就学前の情報交換や子どもの交流会などを実施します。

安心して学べる教育環境の整備

【基本方針】

質の高い教育を指導する教職員の資質・能力の向上を支援し，児童生徒の学習意欲を高める安全な学習環境の維持・向上に努めます。

学校・地域・家庭の連携を強化し，家庭教育や地域での教育力の向上を図り，地域の学びの拠点として開かれた学校を目指します。

【施策の方向】

(1) 教職員の資質・能力の向上

児童生徒の確かな学力の修得を目指し，指導する教職員の資質・能力を向

上させるため、研修や教育研究活動等を支援します。

教職員が意欲を持って勤務できるよう、身体だけでなく精神的疲労に対処するため、県の講習会への参加促進やカウンセリング等の相談窓口の紹介を行います。

(2) 学習環境の整備

学校・学級の少人数化に対応するため、町の学校が連携し、校外学習等を複数の学校が合同で行うなど、子どもたちが学級や学校を超えて交流する機会を創出します。

家庭環境の要因により、経済的理由で就学困難となっている家庭の児童生徒に学用品・修学旅行費・学校給食費等の援助を行います。また、優秀な生徒・学生で経済的理由により、高校や大学への修学が困難な方に対しては学資を貸与します。

児童生徒の学習・生活の場であり、災害発生時の避難場所にも利用される学校施設の耐震化や老朽化対策を推進し、施設の維持に努めます。

今後の少子化に伴い、小中学校の適正規模や適正配置等を検討します。また、児童生徒の学習活動をより充実させるため、学習環境の向上を図ります。

(3) 安全・安心な教育環境の整備

学校や教育委員会及び関係部署、警察等関係機関が連携し、家庭地域の協力も得て、児童生徒の登下校の安全を確保するとともに、児童生徒の交通安全指導を推進します。

また、学校における避難訓練等の防災教育、自らの安全を守るための能力を身につけさせる安全教育を推進します。

子どもたちの放課後の安全な居場所を確保するため、小学6年生までの利用拡大など放課後児童クラブの充実を図るとともに、子どもたちが交流し安心できる新たな居場所についても検討を進めます。

(4) 家庭・地域の教育力の向上

家庭の教育力の向上を図るため、家庭教育学級の開催など家庭教育に関する学習の機会の提供に努めます。

住んでいる地区で実施している地域行事への参加を促すなど、地域と子どもたちのつながりを大切にしていきます。また、地域のパトロールや登下校時の見守りなどボランティア活動への地域住民の参加を促し、学校、家庭、地域が連携し児童生徒の健全な育成を図ります。

青少年や家庭が抱える問題に対処するため、地域に相談員を配置し相談体

制を確保します。

また、高校生会の充実を図るため町の高校生の参加を促すとともに、会員が自発的な行動により自己の向上を図り、地域との交流を深めることを支援します。

(5) 地域資源の教育への活用

学校のホームページ等を活用した情報発信を推進し、学校に対する保護者や地域住民の理解を深め、地域に開かれた学校づくりを目指します。

学校と家庭や地域社会が相互に連携・協力した学校教育の推進を図るため、学校評議員制度や外部評価を取り入れ幅広く意見や助言を求め、学校運営の工夫や改善に活用します。

地域の人材を活用した総合的な学習の時間や職業体験などのキャリア教育を実施します。また、地域の自然や資源を活かした学習・体験講座を実施し、週末等を有効に過ごす機会を提供します。

生涯にわたって学べる環境の整備

【基本方針】

すべての町民が、いつでも、どこでも、誰でも、学べる生涯学習を目指します。

町民がスポーツに取り組むことを促進し、楽しくスポーツができる環境を整備します。

【施策の方向】

(1) 生涯学習の充実

町民が主体となり、生涯にわたって質の高い学びを進めていけるよう生涯学習の体制を整備していきます。

地域の親睦を図るため、町民参画の視点に立った地域に根ざした町民活動を支援するとともに、社会教育諸団体、町民会議などの活動運営に対する支援を行います。

あらゆる世代の多様な学びの場の提供を図り、誰もが生涯を通じて学び続けることができるよう町民の生涯学習活動を支援します。

町民の一人一人が、生涯にわたって自主的・自発的に学習活動に取り組むために、各公民館において多彩な講座や教室のメニューを提供します。

また、各公民館で活動している定期講座や自主講座の受講生が、日頃の活動の成果を発表する場として、公民館を活用した作品の展示イベントを開催

します。

町民の中から掘り起こした各分野の優れた人材や生涯学習講座やサークル活動で習得した技能を持つ人材を、生涯学習講座等で活かすための人材登録の仕組みを検討します。

(2) 生涯スポーツの充実

体育協会やスポーツ少年団などの生涯スポーツ活動団体の育成・支援を推進するとともに、スポーツ推進委員や各種スポーツ団体の指導者等の養成・支援に努めます。

町民の健康維持・増進や体力づくりのために、マラソン大会等のスポーツ行事を開催します。また、国民体育大会のボクシング会場として町民のスポーツへの関心を高めます。

町ホームページや広報誌などを活用し、スポーツに関する幅広い情報提供を行い、町民スポーツの普及に努めます。

(3) 生涯学習施設の有効な活用

誰もが利用しやすい公民館を目指して、各地域のニーズや実態を把握し、公民館機能の有効利用を図り、地域に密着した公民館運営を推進します。また、地域活動の拠点としての充実を図ります。

図書館は、町民の文化、教養、生活の向上に寄与する生涯学習施設として、資料の充実と提供に努めます。また、桂図書館とコミュニティセンター城里の図書室が連携を図り、今後の共通システムの構築を検討します。

生涯学習文化施設や社会体育施設の保守点検を行い適切な維持管理を図ります。また、利用が少ない施設や老朽化した施設などを見直し、今後の改修や維持・管理の方法について検討します。

公民館等の生涯学習施設は、より利用しやすい施設を目指し、部屋の貸出や予約、講座の受付について随時改善し、窓口サービスや使用料についての見直しを図ります。

(4) 地域コミュニティの活性化

地域住民と連携を図りながら、3世代交流事業やボランティアなどの地域コミュニティ活動を支援します。

また、子どもの頃から地域と関わりを持てるよう子ども会活動を支援します。

郷土の文化の継承と文化財の保護

【基本方針】

各地区に受け継がれている郷土芸能や地域文化を町民に周知し、継承と保存を支援します。

町の有形・無形文化財の積極的な保護・保全に努め、町内外に向けてPRします。

【施策の方向】

(1) 地域文化の伝承

町内外の各種イベントなどで、古内大杉ばやしや八木節源太おどりなどの郷土芸能を発表する場を設け、広く周知を図るとともに、郷土芸能の継承と保存活動を支援します。

各地区に残る子どもを中心として活動しているお囃子や太鼓の継承を支援します。また、町民に自分が住んでいる地区以外の地域文化を紹介するとともに、町としての一体感を創出するために、一堂に会して発表する機会を検討します。

黒澤止幾など町の歴史上の偉人や地域に残る伝統工芸などについて、資料等を活用し積極的に周知を図り、観光と連携し地域振興に積極的に活用していきます。

(2) 文化財の保護とPR

町内にある文化財の保護・保存に努めます。また、町の重要な文化財を町文化財として指定し、長く後世に引き継いでいきます。

埋蔵文化財分布地図や文化財ガイド等の資料の発行や指定文化財の案内看板の管理を行い、各種媒体を活用し、町内外に向けて周知を図ります。

教育委員会の主要事務事業評価シート（令和元年度対象）

I ともに社会を生き抜く力を身につける教育

施策2 TT非常勤講師配置事業

施策2 ALT(外国語指導助手)設置事業

II 安心して学べる教育環境の整備

施策2 就学支援事業(小学校, 中学校)

施策2 適応指導事業(うぐいすのひろば)

III 生涯にわたって学べる環境の整備

施策1 花いっぱい運動事業

施策1 成人式典

施策1 青少年育成城里町町民会議

施策1 ふれあいの船事業自主事業

施策2 城里町マラソン大会

施策4 コミュニティセンター自主事業

IV 郷土の文化の継承と文化財の保護

施策1 地域文化の伝承

施策2 文化財の保護とPR(文化財保護事業)

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
 基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	ともに社会を生き抜く力を身につける教育		施策2	
事業名	T T非常勤講師配置事業		確かな学力と自ら考える力の育成 (確かな学力の定着)	
事業の目的	補助教員を配置して、学習態度や生活習慣をしっかり身につけさせ、児童生徒の基礎学力の向上を図りスムーズな学校生活が送れるようにする。			
事業の内容・効果	小中学校各校に補助教員を配置して、複数の教員で学習指導や生活指導を行うことにより、児童の学力の向上及び生活習慣の習得に寄与できた。 各小中学校に配置 小学校 週25時間 年間190日 中学校 週20時間 年間167日			
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	17,560千円
	項	教育総務費	執行済額	16,777千円
	目	事務局費	予算執行率	95.5%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	町単独事業である。 複数の教員で対応することにより、きめ細かな学習指導を行うことができる。		
有効性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	担任とT Tによる指導法の工夫ができ、教育効果の向上に寄与している。		
効率性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	基礎学力の向上を図るために、複数の教員による学習指導は効率的である。		
H29年度 決算額	10,772千円	外部評価委員会の意見 小中学校職員とT T講師との協調関係を図り、より効率性を高めて、今後も事業の継続に努められたい。		
H30年度 決算額	12,631千円			
R1年度 決算額	16,777千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	ともに社会を生き抜く力を身につける教育		施策2	
事業名	A L T (外国語指導助手) 設置事業		確かな学力と自ら考える力の育成 (国際理解教育の推進)	
事業の目的	小学校段階からの英語活動を通じたコミュニケーション能力の向上と中学校英語教育を充実させる。また英語教員の英語力の向上と授業の充実を図る。			
事業の内容・効果	4人のA L Tを小中学校に派遣し、中学校においては英語科教育の充実を、小学校においては、外国語活動及び国際理解教育の充実を図る。 児童生徒の国際感覚、コミュニケーション能力の向上に寄与した。 町単独契約(4人) 週35時間勤務			
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	14,142千円
	項	教育総務費	執行済額	14,067千円
	目	事務局費	予算執行率	99.5%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	教育委員会が外国人と直接雇用契約をしている。国際化がますます進展し、国際感覚、コミュニケーション能力が更に必要となっているため、更に事業の充実が必要である。		
有効性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	事業目的達成に寄与している。国際化が伸展して行く中、英語の活用能力の向上には大いに有効である。		
効率性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	児童生徒の長期期間中のA L Tの活用方法により効果の向上を見込める。		
H29年度 決算額	12,746千円	外部評価委員会の意見 小中学校職員との協調を図り効果ある指導に努め、人員確保のみでなく人材確保にも力点を置き、事業の継続に努められたい。 また、英語圏を始めとした国々と日本との文化の違いを正しく理解したり考えたりできる教育環境づくりにも努められたい。		
H30年度 決算額	12,722千円			
R1年度 決算額	14,067千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	安心して学べる教育環境の整備		施策2	
事業名	就学支援事業(小学校)		学習環境の整備 (豊かな心と健やかな体の創造)	
事業の目的	経済的な理由で児童の就学が困難な場合に、学校で必要な経費の一部を援助する。			
事業の内容・効果	生活保護世帯及び生活保護世帯に準ずる程度困窮すると認められる世帯等の児童の保護者に、学用品費等の援助を行い児童の教育環境を整えた。 要保護児童1人，準要保護児童42人，事前支給 6人			
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	1,050千円
	項	小学校費	執行済額	1,021千円
	目	教育振興費	予算執行率	97.2%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	町民の生活に係わる事業である。 教育環境を整えるための町の関与は妥当である。		
有効性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	目標は達成している。 対象の削減はできない。		
効率性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	対象や負担の見直しは検討の余地がある。		
H29年度 決算額	722千円	外部評価委員会の意見 国庫補助事業に対応する事業であり，今後も継続 事業とされたい。		
H30年度 決算額	837千円			
R1年度 決算額	1,021千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	安心して学べる教育環境の整備		施策2	
事業名	就学支援事業(中学校)		学習環境の整備 (豊かな心と健やかな体の創造)	
事業の目的	経済的な理由で生徒の就学が困難な場合に学校に必要な経費の一部を援助する。			
事業の内容・効果	生活保護世帯及び生活保護世帯に準ずる程度困窮すると認められる世帯等の生徒の保護者に、学用品費等の援助を行い児童の教育環境を整えた。 要保護生徒1人，準要保護生徒34人，事前支給10名			
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	2,894千円
	項	中学校費	執行済額	2,893千円
	目	教育振興費	予算執行率	99.9%
評価項目	評価		理由	
妥当性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		町民の生活に係わる事業である。 教育環境を整えるための町の関与は妥当である。	
有効性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		目標は達成している。 対象の削減はできない。	
効率性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		対象や負担の見直しは検討の余地がある。	
H29年度 決算額	2,336千円	外部評価委員会の意見 国庫補助事業に対応する事業であり，今後も継続 事業とされたい。		
H30年度 決算額	1,931千円			
R1年度 決算額	2,893千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	安心して学べる教育環境の整備		施策2	
事業名	特別支援教育就学奨励費事業 (小学校)		学習環境の整備 (豊かな心と健やかな体の創造)	
事業の目的	特別支援学級等への就学の充実を図るため、障害のある児童の保護者等の経済的負担を軽減するために必要な援助を行い、特別支援教育の振興を図る。			
事業の内容・効果	特別支援学級へ就学する児童及び学校教育法施行令第22条の3に規定する障害の程度に該当する児童の保護者に、学用品費等の支給を行い、特別支援学級への就学の充実を図った。 該当児童 9人			
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	234千円
	項	中学校費	執行済額	234千円
	目	教育振興費	予算執行率	100%
評価項目	評価		理由	
妥当性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		町民の生活に係わる事業である。 教育環境を整えるための町の関与は妥当である。	
有効性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		目標は達成している。 対象の削減はできない。	
効率性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		城里町教育支援委員会において、特別な配慮を要する児童について調査審議し、決定している。	
H29年度 決算額	0千円		外部評価委員会の意見 国庫補助事業に対応する事業であり、今後も継続事業とされたい。	
H30年度 決算額	0千円			
R1年度 決算額	234千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	安心して学べる教育環境の整備		施策2	
事業名	特別支援教育就学奨励費事業 (中学校)		学習環境の整備 (豊かな心と健やかな体の創造)	
事業の目的	特別支援学級等への就学の充実を図るため、障害のある生徒の保護者等の経済的負担を軽減するために必要な援助を行い、特別支援教育の振興を図る。			
事業の内容・効果	特別支援学級へ就学する児童及び学校教育法施行令第22条の3に規定する障害の程度に該当する生徒の保護者に、学用品費等の支給を行い、特別支援学級への就学の充実を図った。 該当生徒 9人			
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	509千円
	項	中学校費	執行済額	509千円
	目	教育振興費	予算執行率	100%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	町民の生活に係わる事業である。 教育環境を整えるための町の関与は妥当である。		
有効性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	目標は達成している。 対象の削減はできない。		
効率性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	城里町教育支援委員会において、特別な配慮を要する生徒について調査審議し、決定している。		
H29年度 決算額	0千円	外部評価委員会の意見 国庫補助事業に対応する事業であり、今後も継続 事業とされたい。		
H30年度 決算額	0千円			
R1年度 決算額	509千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	安心して学べる教育環境の整備		施策 2	
事業名	適応指導事業		学習環境の整備 (いじめや不登校への対応)	
事業の目的	心理的要因や他の理由等で学校に登校できない児童生徒に、指導員が適応指導を行い、学校復帰に向けて支援を行う。			
事業の内容・効果	適応指導事業として「うぐいすのひろば」を設置し、不登校の児童生徒の基礎学力の補充、集団への適応、基本的な生活習慣の改善等の指導を行った。 通級(週 1 日以上) 2 人 (小 5) 通級(週 1 日未満) 8 人 (小 1～3、小 6、中 1～3) 学校復帰(含一次的) 7 人 (小 1～3、小 6、中 2～3)			
予算科目	款	教育費	予算現額 (千円)	4,076 千円
	項	教育総務費	執行済額	3,936 千円
	目	事務局費	予算執行率	96.6%
評価項目	評価		理由	
妥当性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		教育委員会の事業への関与は妥当である。	
有効性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		事業目的に寄与し効果を得た。	
効率性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		緊急性は低いが必要性は高い。	
H29 年度 決算額	3,512 千円		外部評価委員会の意見 うぐいすの広場について、広報しろさとの各種相談案内への毎月掲載や、教育委員会ホームページでの紹介等は、今後も続けてほしい。不登校の児童生徒がうぐいすのひろばに通級することは、学校復帰へのきっかけになるので、今後も継続してほしい。	
H30 年度 決算額	3,347 千円			
R1 年度 決算額	3,936 千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	生涯にわたって学べる環境の整備		施策 1	
事業名	花いっぱい運動事業		生涯学習の充実 (活力あるまちづくり活動の推進)	
事業の目的	地域住民及び児童生徒の環境美化に対する関心・意欲を高めるとともに、きれいな地域づくりを促進する。 参加25団体 努力賞 上限1万円 優秀賞 2万円(学校2, 地域4) 最優秀賞 3万円(学校1, 地域2)			
事業の内容・効果	花いっぱい運動で、すばらしい成果を上げている地域・学校を表彰し、地域住民及び児童生徒の環境美化に対する関心・意欲を高められた。			
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	460千円
	項	社会教育費	執行済額	388千円
	目	社会教育総務費	予算執行率	84.3%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	環境美化を地域ぐるみで推進するための事業で対応、関与は必要である。		
有効性	4 3 2 1 高い □■□□ 低い	取組みに地域差がある。 一律一定の金額を補助している。		
効率性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	参加地区に対しての補助は公平である。		
H29年度 決算額	410千円	外部評価委員会の意見 地域住民の意識を啓発し、まちづくりを目指した環境美化としての事業を望みたい。		
H30年度 決算額	380千円			
R1年度 決算額	388千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	生涯にわたって学べる環境の整備			施策 1
事業名	成人式典			生涯学習の充実 (青少年の健全育成)
事業の目的	二十歳を迎えた青年の新たな門出を祝福し激励するとともに、社会からの信頼と期待に応えられる社会人になるための自覚と認識を促進する。			
事業の内容・効果	城里町立中学校の卒業生及び城里町に住所を有する者で、成人に達した青年男女に成人式典を開催する。成人者としての自覚と意識の高揚が高められた。 成人者 200人 参加者 163人 参加率 81.5%			
予算科目	款	教育費	予算現額 (千円)	430 千円
	項	社会教育費	執行済額	376 千円
	目	社会教育総務費	予算執行率	87.5%
評価項目	評価		理由	
妥当性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		行政のみの運営ではなく、実行委員（成人者）と協働し、事業の目的達成に貢献していることである。	
有効性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		成人者が、自分の生まれ育った郷土のすばらしさを再認識する良い機会となった。	
効率性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		対象・負担とも適切である。	
H29 年度 決算額	354 千円		外部評価委員会の意見 成人者から、実行委員を募って式典を行っているが、地元を離れている成人者が大半であり、毎年、実行委員の応募に苦慮している現状があるので、良い方法を検討して、今後も事業の継続を望みたい。	
H30 年度 決算額	428 千円			
R1 年度 決算額	376 千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	生涯にわたって学べる環境の整備			施策 1
事業名	青少年育成城里町民会議事業			生涯学習の充実 (青少年の健全育成)
事業の目的	町民一体となって、次代を担う青少年の健全育成を図る。			
事業の内容・効果	町民会議では、明るく楽しい家庭づくりを推進するために、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定めている。また、図画・作文コンクール事業を実施し、「家庭の日」の普及、啓発活動に努めた。			
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	990千円
	項	社会教育費	執行済額	990千円
	目	社会教育総務費	予算執行率	100%
評価項目	評価		理由	
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		子どもから見た家庭の団らん等,家庭生活を題材に作品を募集することによって、「家庭の日」に対する意識の高揚が図られ、有効な手段である。	
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		図画や作文を展示することにより,町民に家庭の果たす役割の重要性を認識させ,家族や親子のふれあいを深める良い機会となった。	
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		優先順位はなく公平である。	
H29年度 決算額	990千円		外部評価委員会の意見 青少年育成城里町民会議については、県民会議の傘下に組織されている関係もあり、継続事業である。 県内には、独立機関として実施しているところもあるので、将来的に検討してはどうか。	
H30年度 決算額	990千円			
R1年度 決算額	990千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	生涯にわたって学べる環境の整備		施策 1	
事業名	ふれあいの船事業		生涯学習の充実 (青少年の健全育成)	
事業の目的	北海道の雄大な自然の中での集団活動をとおして、相互の心のふれあいや自然とのふれあいを深めるとともに、学校生活では得られない貴重な体験を会得して、心身ともに調和のある人間形成を図る。			
事業の内容・効果	町内の小学校6年生を対象に、船を利用し北海道の雄大な自然の中での集団活動により、学校生活では得られない体験をとおして、心身ともに成長できた。 対象児童 144人 参加児童 135人 参加率 93.8% 保護者負担金 23千円			
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	9,183千円
	項	社会教育費	執行済額	8,113千円
	目	社会教育総務費	予算執行率	88.3%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	児童同士が互いにふれあい、集団生活におけるルールやマナー等を身につけることができ、事業の目的達成に貢献している。		
有効性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い	中1ギャップの解消に効果が現れている。また、リーダーである高校生にも成長が感じられる。		
効率性	4 3 2 1 高い □■□□ 低い	26年度から、負担金を20千円から23千円に見直した。今後、消費税増税の影響や児童数の減少により負担金を見直す必要がある。		
H29年度 決算額	8,810千円	外部評価委員会の意見 児童数の減少、保護者の希望等を考慮して、当面は継続しても、段階的な検討を望みたい。		
H30年度 決算額	7,950千円			
R1年度 決算額	8,113千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
 基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	生涯にわたって学べる環境の整備		施策 2	
事業名	城里町マラソン大会		生涯スポーツの充実	
事業の目的	町民の健康維持と体力づくり，並びに児童生徒の体力向上を目的とし，マラソン大会を開催する。			
事業の内容・効果	城里町に在住・在学・在勤する小中学生，一般（高校生以上）を対象にマラソン大会を開催し，町民の体力増進，児童生徒の体力向上を図った。 参加者…小学生 229名・中学生 163名・一般 15名 合計 407名			
予算科目	款	教育費	予算現額（千円）	566千円
	項	保健体育費	執行済額	440千円
	目	保健体育総務費	予算執行率	77.7%
評価項目	評価		理由	
妥当性	4 3 2 1 高い ■□□□ 低い		事業目的達成に貢献している。	
有効性	4 3 2 1 高い □■□□ 低い		町民の体力増進，児童生徒の体力向上に寄与できる。	
効率性	4 3 2 1 高い □■□□ 低い		対象・負担とも適切である。	
H29年度 決算額	512千円		外部評価委員会の意見 町民の体力増進，児童生徒の体力向上に係る事業で有効である。 町民への啓発に努め，特に高校生も含む一般参加者を増やす方法を工夫されたい。	
H30年度 決算額	592千円			
R1年度 決算額	440千円			

令和元年度事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	生涯にわたって学べる環境の整備		施策 3	
事業名	コミュニティセンター自主事業		生涯学習施設の有効な活用 (文化事業の開催)	
事業の目的	コンサート等の公演を開催し、芸術・文化を鑑賞する機会を町民に提供することで、芸術文化の高揚に努める。			
事業の内容・効果	コミュニティセンターのホールにおいて、令和2年3月に「イルカほのぼのコンサート」公演となっていたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策のため、令和2年度に延期とした。 ・売上額 2,268 千円 (1 席 4,000 円×売上枚数 567 枚 12/27 完売) ・契約金額 4,246,000 (1 回公演) — 実経費 (ポスターチラシ等) 338,800 円 = 令和2年度繰越額 3,907,200 円 ※拡大防止対策として約 300 席×2 回公演で実施予定			
予算科目	款	教育費	予算現額 (千円)	5,500 千円
	項	社会教育費	執行済額	339 千円
	目	コミュニティセンター費	予算執行率	6.1%
評価項目	評 価		理 由	
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		自主事業を開催して芸術文化の高揚に努めるため今後も開催を計画する。	
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		身近な場所で、芸術文化に触れあう機会を提供できるため、有効である。	
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		歳入の面を見れば、座席数 567 席の収入で多くは望めないが、上記の有効性を考慮すれば、事業の効果はあると思われる。	
H29 年度 決算額	2,276 千円		外部評価委員会の意見 生涯学習講演会や社会教育関連事業と連携して計画し、事業の一本化を図り推進されたい。 事業実施の際には、新型コロナウイルスの感染防止のための十分な対策を講じるようお願いする。	
H30 年度 決算額	5,440 千円			
R1 年度 決算額	339 千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
 基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	郷土の文化の継承と文化財の保護		施策 1 地域文化の伝承	
事業名	文化財保護事業（地域文化の伝承）		施策 2 文化財の保護と PR	
事業の目的	地域住民により長く伝承され、地域に根ざした郷土民俗芸能の保存・継承活動の助成			
事業の内容・効果	町指定無形民俗文化財の保存団体である古内大杉ばやし保存会と下赤沢民俗芸能保存会（文化財名八木節源太踊り）に運営事業補助金を交付した。			
予算科目	款	教育費	予算現額（千円）	102 千円
	項	社会教育費	執行済額	102 千円
	目	文化財保護費	予算執行率	100%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 3 2 1 高い■ □ □ □ 低い	町の無形文化財として指定されている保存団体を対象としていることから、助成は妥当である。		
有効性	4 3 2 1 高い■ □ □ □ 低い	運営事業補助金は継続して交付しており、保存団体の活動支援として有効である。		
効率性	4 3 2 1 高い■ □ □ □ 低い	補助金は、保存団体の活動のうち団体が必要な内容に優先的に使用できるため、事業目的に対し一定の効率性は確保できる。		
H29 年度 決算額	102 千円	外部評価委員会の意見 地域文化の伝承事業として有効である。 保存会として指導者、演者等の育成にも配慮し、町内外への発表など啓発に力を入れるとともに、他の民俗芸能の発掘にも努めてほしい。		
H30 年度 決算額	102 千円			
R1 年度 決算額	102 千円			

令和元年度教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	郷土の文化の継承と文化財の保護		施策2 文化財の保護とPR	
事業名	文化財保護事業(文化財保護とPR)			
事業の目的	文化財の保護・保存と国民の文化的向上を目的とする文化財保護法に則り、有形・無形・埋蔵文化財の保護、保全を行う。			
事業の内容・効果	指定文化財をはじめとする町文化財について協議するために文化財保護審議会を運営し、その結果に従って必要な措置を行った。令和元年度は、町が所有する文化財敷地等の管理を行い、また、埋蔵文化財包蔵地における開発にかかる試掘調査等を実施した。また、①黒澤止幾生家の保存活用計画策定ならびに②頓(徳)化原古墳発掘調査について、いずれも進捗状況から繰越しとなっていたが、①については策定業務が完結し、②については3ヶ年計画のうちの2年度目までの業務が終了したため、令和元年度それぞれについて予算を執行した。			
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	8,042千円
	項	社会教育費	執行済額	6,638千円
	目	文化財保護費	予算執行率	82.5%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 3 2 1 高い■ □ □ □ 低い	指定文化財の保護保全について必要な措置を行った。埋蔵文化財包蔵地について、必要な手続きを実施し県に進達した。いずれも事業目的に対し実施は妥当である。		
有効性	4 3 2 1 高い■ □ □ □ 低い	事業目的に対し、実施内容は有効である。		
効率性	4 3 2 1 高い■ □ □ □ 低い	文化財保護については長期的な取り組みが必要であり、必要な対応を適宜行っている。		
H29年度 決算額	1,270千円	外部評価委員会の意見 町の有形、無形、地域の歴史、文化を語り継いでいくことは自治体の役目である。今後も埋蔵文化財の保護と活用、PRに努められたい。 ただし、保護事業・予算措置については長期的視野で計画的な執行に配慮されたい。		
H30年度 決算額	1,470千円			
R1年度 決算額	6,638千円			

教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会会議の開催回数

定例会 12回
臨時会 2回

(2) 教育委員会定例会及び臨時会での議案等の件数

総件数 58件
議案 38件
承認 17件
報告 2件
要望 0件
選挙及び指定 1件

(3) 会議録の作成方法

要旨の筆記

(4) 教育委員会定例会及び臨時会における主な審議内容

月	審 議 内 容
4月	臨時会 ・城里町教育委員会教育長職務代理者の指定について
	定例会 ・城里町立学校評議員の委嘱について ・城里町図書館協議会委員の委嘱について ・平成31年度教育委員会非常勤特別職、嘱託職員、臨時職員の任用について
5月 定例会	・要保護・準要保護児童生徒の認定について ・社会教育委員及び公民館運営審議会委員の委嘱について ・城里町スポーツ推進委員の委嘱について ・城里町文化財保護審議会委員等の委嘱について
6月 定例会	・学区外就学許可申請について ・区域外就学許可申請について
7月 定例会	・小中学校において使用する教科用図書並びに小中学校特別支援学級（知的障害）において使用する教科用図書について ・令和元年度城里町一般会計補正予算（教育委員会所管分）について

月	審 議 内 容
8月 定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・学区外就学許可申請について ・区域外就学許可申請について
9月 定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・学区外就学許可申請について ・区域外就学許可申請について
10月 定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・学区外就学許可申請について ・区域外就学許可申請について ・令和元年度城里町一般会計補正予算（教育委員会所管分）について
11月 定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護・準要保護児童生徒追加認定申請について ・区域外就学許可申請について
12月 定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度学齢簿の編成及び就学通知について ・学校等生活支援員配置申請について ・令和元年度城里町一般会計補正予算（教育委員会所管分）について
1月 定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・学区外就学許可申請について ・区域外就学許可申請について
2月 定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等生活支援員配置申請について ・学区外就学許可申請について ・区域外就学許可申請について ・令和元年城里町教育委員会外部評価委員会点検評価報告書（平成30年度事業分対象）
3月 臨時会	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度末、令和2年度始管理職人事内申について ・令和元年度末、令和2年度始教職員人事異動について
3月 定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校歯科医の委嘱について ・令和2年度城里町奨学生採否の決定について ・城里町立学校の教育職員の在校等時間の上限等に関する方針に関する規則の制定について ・令和元年度城里町一般会計補正予算（教育委員会所管分）について ・令和2年度城里町一般会計予算（教育委員会所管分）について

会議運営上の主な工夫

「議案等」以外に，教育長報告，その他の報告を加え，その時々にあった案件について協議を行った。

(5) 定例会及び臨時教育委員会以外の活動状況

- | | |
|-----|--------------------------------|
| 4月 | ・年度初めの辞令交付式
・各小中学校入学式 |
| 5月 | ・小学校運動会訪問 |
| 7月 | ・教育委員による学校訪問 |
| 7月 | ・ふれあいの船の実施 |
| 8月 | ・ふれあいの船実施報告 |
| 9月 | ・中学校体育祭訪問 |
| 11月 | ・教育委員による学校訪問
・城里町小中学校音楽のつどい |
| 12月 | ・城里町子ども議会
・城里町総合教育会議 |
| 3月 | ・年度末の辞令交付式 |

教育委員の研修会

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 5月28日 | 市町村教育委員会連合会定期総会及び講演会
(常陸太田市) |
| 7月9日 | 東茨城郡教育委員会連絡協議会定期総会及び研修会
(大洗町) |
| 10月30日 | 市町村教育委員会研修会
(水戸市) |
| 11月6日 | 東茨城郡教育委員会連絡協議会役員会
(城里町) |
| 11月26日 | 東茨城郡教育振興大会
(城里町) |

学校訪問	小学校5校 中学校2校
入学式	小学校5校 中学校2校
運動会・体育祭	小学校5校 中学校2校
その他	町P連研修会，生涯学習講演会，成人式 花いっぱい運動審査会，ふれあいの船事業出発式， しろさとスポーツフェス他

○反省及び評価点

毎月25日に開催している定例会及び随時開催の臨時会は、ともに、城里町教育委員会会議規則に則り運営されている。

定例会については、毎月25日午前9時30分から開催と内部で決めているが、各委員の予定に合わせた25日前後の開催日になっている。

また、審議内容を深めるために、議案書を事前に各委員へ配付し、委員会内で意見の集約、統一を図ることに努めている。緊急の案件に対しては、必要に応じて臨時会を開催し、委員会としての意見の統一化を図っている。

今後も、公正公平な判断のもと、さらに委員会活動が活発になるように努めていきたい。

○外部評価委員の意見

教育環境を十分に把握した上で、教育活動への支援に力を注いで教育力の向上に努めていただきたい。

また、少子化に伴う幼児教育と幼児施設の在り方について、特に、年長児後半から小学校入学期までの学びの連続性を意識した指導内容・指導方法の在り方を検討していただきたい。

廃校施設の利活用についても、継続して有効利用を検討していただきたい。

令和元年度教育委員名簿

(令和元年4月1日現在)

職名	氏名	任期回数	当初任命日	現在の任期	女性委員	保護者
教育長	たかおか ひでお 高岡 秀夫	1	H29. 7. 13	H29. 7. 13 ~ H32. 7. 12		
教育長 職務代理者	まつざき しのぶ 松崎 忍	1	H29. 3. 26	H29. 3. 26 ~ H33. 3. 25		
委員	そのべ さなえ 菌部 早苗	1	H28. 4. 1	H28. 4. 1 ~ H32. 3. 31	○	
委員	おかだ まこと 岡田 誠	1	H30. 4. 23	H30. 4. 23 ~ H34. 4. 22		○
委員	かわまた まさる 川又 将	1	H31. 4. 1	H31. 4. 1 ~ H35. 3. 31		

教育委員会外部評価委員の意見

ともに社会を生き抜く力を身につける教育

T T非常勤講師事業については、学校関係職員とT T講師との協調関係を図ることで、より効率性を高める工夫をされ今後も継続されたい。

A L T設置事業については、T T非常勤講師事業と同様に、学校関係職員との協調関係を図り、効果ある指導に努め人員確保のみでなく人材確保にも力点をおかれ継続されたい。また、英語圏を始めとした国々と日本との文化の違いを正しく理解したり考えたりできる教育環境づくりにも努められたい。

また、国のGIGAスクール構想に基づく校内通信ネットワークの整備が進められていることから、当町の小中学校においても、児童生徒1人1台のタブレット端末の配備を計画的に実現されたい。

安心して学べる教育環境の整備

要保護・準要保護補助事業については、従前の国庫補助事業に対応する事業であり、今後も継続事業とされたい。

適応指導事業については、活用できるような体制づくりや事業の周知方法を考えてはどうか。また、学校への復帰のきっかけになるので継続して欲しい事業である。

生涯にわたって学べる環境の整備

花いっぱい運動事業については、地域住民の意識を啓発し、まちづくりを目指した環境美化としての事業を望みたい。

成人式典事業については、成人者から、実行委員を募って行っているが、地元を離れている成人者が大半であり、毎年、実行委員の応募に苦慮している現状があるので、良い方法を検討して、今後も事業の継続を望みたい。

青少年育成城里町民会議については、県民会議の傘下に組織されている関係もあり、継続事業である。県内には、独立機関として実施しているところもあるので、将来的に検討してはどうか。

ふれあいの船事業については、児童数の減少、保護者の希望等を考慮して、運営や参加体制の検討を望みたい。

マラソン大会については、町民の体力増進、児童生徒の体力向上に係る事業で有効であり、町民への啓発に努め、参加者を増やす方法を工夫されたい。

自主事業については、生涯学習講演会や社会教育関連事業と連携して、参加者増員を目指した企画運営や広報活動を推進されたい。また、江戸川区との交流事業は、隔年、又は数年毎に実施するなど計画的な企画運営をされたい。

郷土の文化の継承と文化財の保護

地域に引き継がれている伝統文化・伝承事業として有効なものの存続や、町の財産である文化財の保護について計画的に予算化し、保存に努めるとともに、その活用とPRに努められたい。

各学校においては、「城里学ぶつく」の活用を通して、郷土理解や郷土愛を深めていただきたい。また、地域の人たちへの興味関心の喚起や啓発活動をお願いしたい。

【 総合意見 】

外部評価の対象となった12事務事業について評価を基にして、各事業についての見直しと今後の効果的な運営に努められたい。


また、少子化に伴い、教育効果や地域住民の啓発について、他の機関との連携や開拓（新たな手法）を望むとともに、郷土文化の継承と文化財の保護についても教育委員会事業として創意工夫されたい。


文化財関係の予算については、限られた財源の中で長期的な計画の基、効率的な運営を推進されたい。

小学校における英語教育の前倒しの取組については、児童が英語に慣れ親しめる機会を多くつくっていただくようお願いしたい。

令和2年3月に、新型コロナウイルスの感染拡大防止で、政府が全国の小中高校などに臨時休校を要請したのを受け、城里町立小中学校が臨時休校となりましたが、児童生徒へのタブレット端末の配備計画を踏まえて、緊急時においても、児童生徒の学習環境を維持できるよう学習支援およびICT環境整備をお願いしたい。

令和 2 年 12 月 24 日

外部評価委員 住谷里 

外部評価委員 仲田文子 

外部評価委員 川野邊 浩子 